

合気道

守央書

Vol. 22



全日本合気道連盟広報 JAPAN AIKIDO FEDERATION (JAF)

◇発行日：令和2年6月29日(月)
◇発行：全日本合気道連盟 (JAF)
〒162-0056
東京都新宿区若松町17番18号
(公財) 合気会内
TEL 03-6457-3315

◇発行人：尾崎 响
◇編集責任者：林 典夫

2P 現在の状況下において 合気道道主植芝守央

3P 全国道場・団体連絡会議
全日本合気道連盟理事会

4P 全国指導者候補講習会

5P 合気道兵庫県連盟 地域社会合気道指導者研修会
愛媛県合気道連盟 地域社会武道指導者研修会

6P 愛知県合気道連盟 地域社会合気道指導者研修会
山梨県合気道連盟 合同講習会

7P ニュージーランド50周年



現在の状況下において

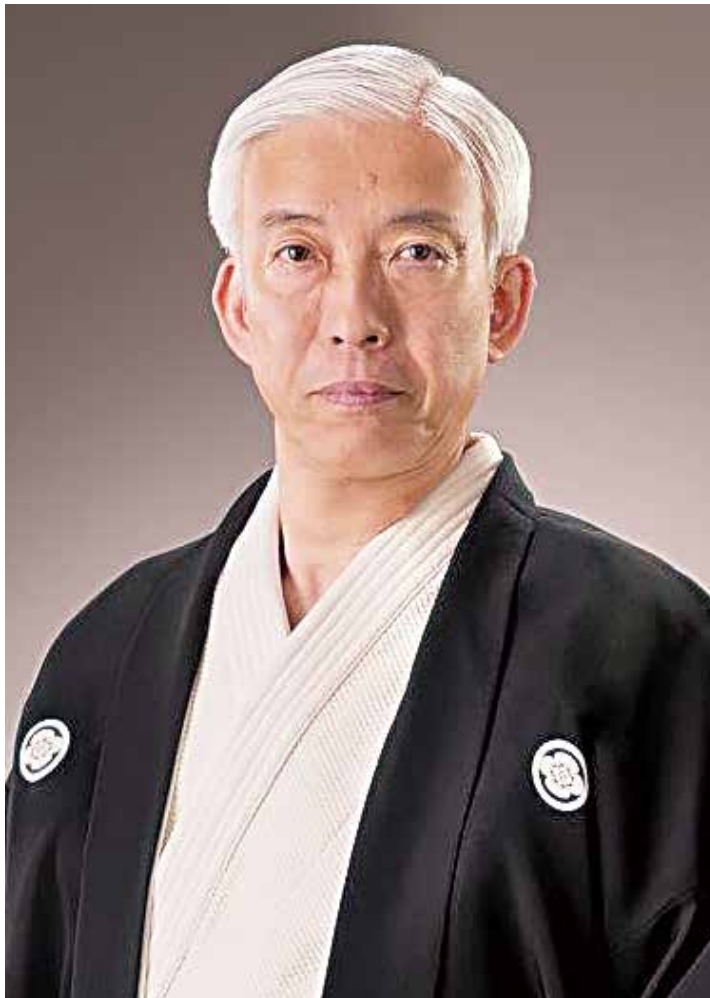
合気道道主
植芝 守央

合気道本部道場が令和二年四月八日からすべての稽古を自粛し、事務局も閉じ、全く人の気配がなくなつてから早くも一か月が経ちました。緊急事態宣言が延長されたことにより当分の間は稽古を自粛せざるを得なくなりました。覚悟はしているものの残念でなりません。

この一か月、一日に一度は窓を開け、空

気を流すために道場へと足を運びました。シンと静まり返っている道場、百五枚の畳、板張りのへりを合わせて百二十畳の道場がより一層広く感じます。正面の開祖植芝盛平翁と吉祥丸二代道主のお二人のお写真が現在の状況にも動ぜずじつとご覧になっています。

昭和六年に開祖が私財を寄付して建て



た合気道専門道場「皇武館」。東京への度重なる空襲により、道場のある若松町も燃えつくされる状況下で、「開祖から留守を任された大切な道場を燃やされてはならない」との思いで植芝吉祥丸二代道主は飛び来る火の粉を振り払い、必死に道場を守り抜いたので。焼け野原の中に一つ道場が戦火を免れた事が終戦後の合気道復興を促す思ひ召しだったに違いありません。当然戦時下は稽古をすることは出来ず、終戦後も避難所として開放されていたのでした。

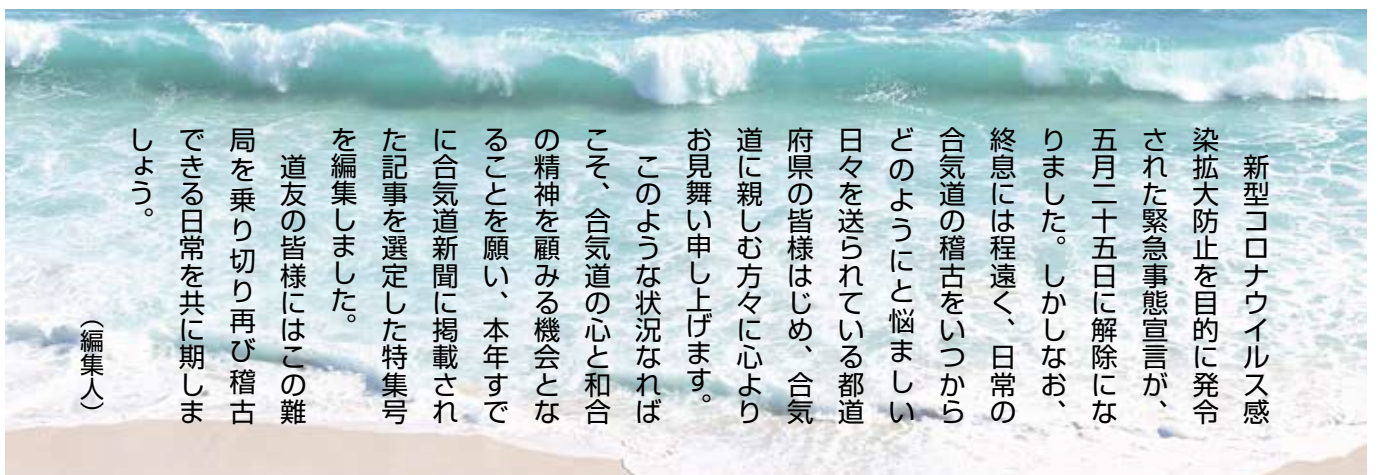
建物は建て替えられましたがお二人の魂がこもった道場であることには変わりはありません。

新型コロナウイルス感染拡大により、世界中で合気道の稽古を自粛しなければならず、公益財団法人合気会としても非常に苦しい時であり、じつと耐えなければならぬときです。このお二人の思いを道場で感じながら何としても切り抜けていこうと強く思っています。皆様との再会を心待ちにしながら。

新型コロナウイルス感染拡大防止を目的に発令された緊急事態宣言が、五月二十五日に解除になりました。しかしなお、終息には程遠く、日常の合気道の稽古をいつからどのようにと悩ましい日々を送られている都道府県の皆様はじめ、合気道に親しむ方々に心よりお見舞い申し上げます。

このような状況なればこそ、合気道の心と和合の精神を顧みる機会となることを願い、本年すでに合気道新聞に掲載された記事を選定した特集号を編集しました。道友の皆様にはこの難局を乗り切り再び稽古できる日常を共に期しましょう。

(編集人)



全国道場・団体連絡会議



全国道場・団体連絡会議は、一月十一日午後二時半から本部道場三階にて行われた。植芝守央道主より挨拶の後、植芝充央本部道場長が議長に選出され議事が進行された。

まず行事報告として金澤威(公財)合気会総務部長より「平成三十一年(令和元年)(公財)合気会主要行事報告、令和二年の(公財)合気会主要行事予定の報告」、宮本

鶴藏全日本合気道演武大会実行委員長より全日本合気道演武大会について「第五十七回大会についての御礼・報告、第五十八回大会についての諸連絡」、鈴木俊雄(公財)合気会少年部担当より全日本少年少女合気道演武大会についての報告、尾崎响全日本合気道連盟理事長より全日本合気道連盟からの報告として「事業報告、事業計画」と国際大会で行われる道主特別講習会の案内、小山雄二(公財)合気会学生担当より全国学生合気道連盟からの報告として「平成三十一年度の行事報告、令和二年度の事業計画」、井出啓之全国高等学校合気道連盟理事長より全国高等学校合気道連盟から「平成三十一年度の事業報告、令和二年度の事業計画、連盟加盟状況」の報告がされた。さらに本部からの連絡として、金澤総務部長より日本武道協議会の令和元年度武道功労者及び武道優良団体が発表された。武道功労者は五味田聖二師範(合気道田辺道場)、武道優良団体は静岡県合気道連盟。また「合気道本部道場創建九十年、(公財)合気会設立認可八十周年記念祝賀会」が令和三年十月十六日に京王プラザホテルで行われると告知があった。最後に、茨城支部道場からの連絡として、稲垣繁實(公財)合気会茨城支部道場総務部長より、いきいき茨城ゆめ国体の中で行われたデモンストレーション合気道の報告と御礼などがあった。

全日本合気道連盟理事会



全日本合気道連盟(丁A F)令和元年度第二回理事会が、令和元年一月十一日十二時半より合気会会議室にて行われた。

会に先立ち植芝守央現道主より「本年は高崎市で開催される第五十八回全日本合気道演武大会、東京代々木オリンピック記念センターでの第十三回国際合気道大会などの行事があります。皆様方のご協力で更なる合気道の普及振興を期待したい」との年頭の御挨拶を賜った。

現道主退席された後、尾崎响全日本合気道連盟理事長が議長となり、会議に移った。報告事項として第十七回全日本合気道連盟講習会、アジア合気道連盟理事会、機関紙二十号と二十一号発行、第七回全国指導者研修会(尾崎理事長、合気会より林典夫常務理事が講師で参加)、「ねんりんピック」の国わかやま二〇一九大会協力、全日本合気道連盟加盟団体名簿改訂版制作と発送等について報告がなされた。

続いて新年度事業計画では、第十三回国際合気道大会、国際大会最終日に開催される第十八回全日本合気道連盟講習会(主管東京都合気道連盟)、田辺市武道館落慶記念事業、機関紙二十二号と二十三号発行について、各常任理事より説明があった。また、綾部市市制七十周年慶祝・植芝塾開設百周年記念合気道特別講習会について岡本洋子全日本合気道連盟監事から京都府連の立場として説明があった。

総て承認された後、約一時間半の理事会は閉会した。

全国指導者候補講習会

令和元年度指導者候補講習会(主催(公財)合気会)は一月二十五、二十六日の二日間

にわたり、港区スポーツセンターにおいて、国内外の合気道の普及に伴い、「幅広い年齢層と多様化した会員層に伝えられる指導者が必要となり、今後の更なる普及を見据え、指導法に関する実技と講義を行う」ことを趣旨として開催された。

本講習会には全国から四十歳以下の二段から四段の指導者及び次期指導者ら八十七

名が参集した。

二十五日の開校式にあたり、(公財)合気会理事長である植芝守央道主より「全国よりの多くの指導者の皆様がお集まりいただきありがとうございます。二日間という限られた時間ではございますが、本講習会で合気道の基礎・基本を確認し地元での稽古、指導に活かしていただきたいと思えます」と主催者挨拶。続いて講習会講師として植芝道主、植芝充央本部道場長、立木幸敏国際武道大



学教授、鈴木俊雄本部道場指導部師範、小山雄二同師範が紹介された。

開校式に続いて植芝本部道場長による実技「入門から五級までの指導法」の講習が行われた。座り方や立ち方、半身の確認を最初に指導。また受身の段階的指導方法を提示した。

続いて転換法、片手取り四方投げ、正面打ち入身投げでは相手との繋がりを意識して受けの取り方について指導された。

次に小山師範による実技「四級から三級までの指導法」の講習が行われた。小山師範は横面打ちの捌きを中心に横面打ち四方投げ、肩取り第二教を指導。打ち方や間合いの取り方を交えながら横面打ちの捌きを指導し、それが技にどのように活かされるのか強調した。小手返しや両手取り天地投げでも体捌きを活かし、崩し方や崩す方向について

指導した。

続いて立木教授による「頭部外傷の予防について」の講義が行われた。スポーツ中における事故や脳震盪の危険性について様々な事例を踏まえながら細かく解説された。翌二十六日に鈴木師範による「二級から一級までの指導法」が行われ、転換で相手との繋がりが一教、入身投げの崩しの稽古法を展開した。後ろ両手首取り第三教では、取り方や間合い、膝を十分に使い上半身だけに頼ることのないように強調し、片手取り回転投げでは前回り受身の指導や相手の崩し方を指導した。

二日間の講習の最後は植芝道主による講演・稽古が行われた。植芝道主は始めに(公財)合気会で提唱している「合気道倫理憲章」「行動規範」「合気道練習上の心得」について説明された。全都道府県で活動の軸となる連盟が発足し、今後の社会状況で正しく合気道を普及するにあたり、道場の責任者、指導者として遵守すべき内容であると説明。また「合気道練習上の心得」においては作成当時の時代背景を踏まえ解説され、開祖、吉祥丸二代道主から続く合気道の歴史を講演された。次に立ち方や座り方、体捌きの基本動作を説明。参加者と共に基本の動作を確認した。続いて基本技として諸手取り呼吸法、二教、正面打ち第一教、横面打ち四方投げ等基本技を中心に指導。技をする時の姿勢や間合いについて一つ一つ丁寧に説明された。

閉講式では最後に参加者を代表して合気道広島平進館の瀬川和宏氏に植芝道主より終了証が授与され講習会は滞りなく終了した。